

1 研究主題

(令和4～5年) 2カ年継続研究(1年次)

「未来を切り拓き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育」

～ 新たな時代を担う 令和の日本型学校教育を推進する学校経営 ～

2 研究推進の概要

(1) 研究推進の基本

研修部研究とブロック研究により研究を推進した。ブロック研究については、管内を3ブロックに分け、それぞれ年次課題に基づいて各校長が実践研究を進めた。その実践内容については第46回研究大会(8月)及び各ブロック研究会(11月)において全体発表し、研究協議等を行い、渡島小中学校長会としての研究の深化を図った。特に今年度はブロック研究会の提言内容をWebで公開し、他ブロックでの研究内容についても共有化を進めた。

(2) 研修部研究

○中学校部会 研究課題「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

- ・実践研究:「総合的な学校力向上のために協働できる教員の育成と校長の在り方」についての研究と、令和5年度に開催される全日中大分九州大会の第7分科会における提言発表準備

(3) ブロック別研究会の開催 (11月開催～3ブロックに分かれて開催)

- 1 「個別最適な学び・協働的な学び」を進める学校づくりはどうあるべきか
- 2 「資質能力の向上と働き方改革」を進める学校づくりはどうあるべきか
- 3 「一人一台端末の効果的な活用」を進める学校づくりはどうあるべきか

3 研究の成果と課題

(1) 成果と課題

① 成果

ア 総合的な学校力向上のためには、押し寄せてくる学校教育課題を1つ1つクリアして、それぞれの校長が学校内のベクトルの向きを揃えるように努力し、強いリーダーシップを発揮して学校経営にあたる必要があるということがわかった。

イ よりよい関係性を作る根本は、「聞く力」にあり、信頼づくりや心理的安全性の確保は、コーチングの手法を活用し、「傾聴」から始まるということがわかった。

② 課題

ア 渡島管内の学校では、教員のコミュニケーション能力の低下がみられる学校もあり、計画的に補強するための戦略が必要である。

イ 職員室や学校の雰囲気や空気のづくり方には、マニュアルがあるわけではないので、それらを醸成できる人間力が校長には必要であるが、そのための研修方法の模索が必要である。

(2) 次年度への展望

校長のサーバント型のリーダーシップが重視される中、主体的に経営に参画できる教職員にはどのような資質・能力が必要であるのかを明確にし、そうした具体的な教職員の姿を共通に理解するとともに、そうした教職員を育成するためには、どのような学校経営が求められるのかを、この度の研究を通じてより深く解明し、学校経営の汎化に結び付けるよう努める必要がある。

1 研究主題

(令和4～5年) 2カ年継続研究 (2年次)

「未来を切り拓き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育」

～ 新たな時代を担う 令和の日本型学校教育を推進する学校経営 ～

2 研究主題設定の趣旨

今日、人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。そこで、上記研究主題を設定した。

3 研究内容

(1) 中学校部会 研究課題「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

- ・実践研究：「新たな学校文化を形成し、教職員の意識改革を推し進める校長の在り方」についての研究と、令和5年度に開催される全日中大分・九州大会の第7分科会における提言発表の表準

4 研究推進計画

第18期研究主題の解明にあたり2カ年継続の2年目とし、以下により研究を推進する。

(1) 研究推進の基本

研修部研究とブロック研究により研究を推進する。ブロック研究は渡島管内を3つのブロックに分け、研究内容を2カ年継続とする。会員全員がブロックごとに研究主題を自らの課題としてとらえ、実践研究を行う。また、渡島研究大会において研修部研究について研究協議を行い、意見集約を行う。

(2) 令和5年度の計画

- ① 4月 研究推進計画の検討・確認 (校長会総会) 及び研修部研究の推進
- ② 5月～7月 ブロック研究推進の検討・確認及び各会員の実践研究推進とまとめ
- ③ 9月 道小・中研究大会への参加と提言準備
- ④ 11月 ブロック研究大会 (3会場)
- ⑤ 12月 研究の反省とまとめ
- ⑥ 2月 研究紀要の発刊および次年度研究計画の作成・確認

5 研究組織

